

КЭНКЮСЯ
РУССКО-ЯПОНСКИЙ
СЛОВАРЬ

研究社
露和辞典

編 集

東郷正延 染谷 茂
磯谷 孝 石山正三

КЭНКЮСЯ

РУССКО-ЯПОНСКИЙ
СЛОВАРЬ
Изд-ва «КЭНКЮСЯ»

Под редакцией
М. Того, С. Сомэя,
Т. Исоя, С. Исияма

研究社露和辞典

編 者

東郷正延・染谷 茂
磯谷 孝・石山正三



ИЗДАТЕЛЬСТВО «КЭНКЮСЯ»

РУССКО-ЯПОНСКИЙ
СЛОВАРЬ.
Токио, «Кэнкюся», 1988.

研究社露和辞典

机上版

初版 第1刷 1988年9月



編者 東郷正延・染谷 茂
磯谷 孝・石山正三

発行者 長井四郎
発行所 株式会社研究社

〒101 東京都千代田区神田駿河台2の9
電話 編集(03)291-6845
販売(03)291-2301
振替 東京9-32260

本文組版 研究社印刷株式会社
写真製版 株式会社近藤写真製版所
本文印刷 三英印刷株式会社
本文用紙 十條製紙株式会社
クロス 東洋クロス株式会社
製本 株式会社松本製本所
製函 株式会社加藤製函所

ISBN4-7674-9030-8

まえがき

1957年10月人類初の人工衛星「スプートニク」1号がソ連の手によって打ち上げられ、さらに61年にはガガーリン少佐が「ボストーク」1号で人類初の宇宙飛行を行ない、世界の耳目を集めた。この二つの出来事はソ連の科学技術・宇宙技術のレベルの高さを物語るものであった。

わが国においてもその頃から「ロシア語」ブームが到来、とりわけ理工系の学部のある大学でロシア語教育が盛んになった。このような状況のなかで1961年秋、研究社初代社長小酒井五一郎氏の英断により、「露和辞典」編纂の企画がまとまり、除村吉太郎、石山正三、錦織綾紹、それに私の四人で、「露和辞典」の編集がスタートした。しかし原稿作成段階で予想外の長年月を要し、原稿執筆が完了したのは企画がスタートしてから17年後であった。1979年に本格的に組版が開始されたが、原稿作成中および組版中にソ連から優れた辞書・参考書があいついで刊行され、それらの資料を盛り込むために出来あがっていた原稿の部分的な再検討を迫られた。

わが国では英和辞典以外の辞典は初学者から実務家・専門家までの広範な利用者を想定しなければならず、いきおい収録語数も多くせざるを得ない。本辞典も本見出し、追込み見出し、変化形見出し、および成句を含めて総収録語数26万語を数えるにいたり、携帯版の辞典としてはほぼ限界の大きさに達し、実質的には大辞典の域に迫るものとなったが、あえて携帯版の判型も準備して初学者から専門家にいたる広い読者の使用に供することにした。本辞典の特色をまとめると次の通りである。

1. 野鳥の生態を知るには図鑑の絵1枚だけでは不十分なように、言葉の生態を知るにはなによりもまず用例が不可欠である。学習辞典の枠内に包括される重要基本語については特にそうである。そこで学習辞典的側面を重視している本辞典では、重要語(*のついたもの約7500語)には十二分のスペースをさき、豊富な用例をあげて徹底した記述を施した。記述の詳しさは他に類書がなく、さながら「露和活用辞典」ともいうべき内容になった。

2. 「露和辞典」では本邦初めて類義語欄を設け、ロシア語の言葉の使い分けの微妙な差異を説明した。

3. 文法的な説明を適宜、随所に与え、文法辞典的な性格を帯びるようにした。動詞については可能な限り命令形を付記した。

4. 広範な読者の利用を考え、百科辞典的要素を盛り込んだ。人名・地名はもとより各分野の専門語を多数収録した。

5. 本辞典の用例はすべてロシア語を母国語とする教養あるロシア人の綿密な校閲を得ており、どの用例も安心して日常会話・作文に応用できる。

6. 科学技術の進歩に伴い、多岐の分野にわたっておびただしい数の新語が現われたが、本辞典では可能な限りこれを収録した。

7. 言葉の派生関係を表わすために見出し語のあとに《< 》を用いて、語構成の理解の助けとした。
8. 訳語の理解の補助としてロシア語のシノニム（同義語）を与えた。
9. 語の有機的な理解の補助としてアントニム（反意語）を与えた。
10. 最近の国際情勢・時代を反映する略語を巻末に収録した。
11. 発音の留意すべき語に国際音声字母（IPA）で注記し、巻末には詳しい発音解説をつけた。
12. 変化形も積極的に見出し語として採用し、初学者にも使いやすくした。

なお、本辞典の企画者である石山正三君をはじめ、私たちの仕事の精神的支柱であった除村吉太郎先生、校正段階での協力を期待していた錦織綾紹君らも今や幽明境を異にして出版の喜びを共にすることができないのはかえすがえすも残念である。

遅々として進まぬ私たちの仕事ぶりに終始変わらぬご理解とご好意を示してくださった研究社会長植田虎雄氏、社長長井四郎氏にこの機会に厚くお礼を申し上げます。また長年にわたる仕事の過程で、ともすれば遅れ勝ちな仕事を正常に進行させるべく編集上の幾多の困難を打開し、また新機軸を編みだし、文字どおり編集の中軸となって本辞典を完成に導いた名参謀小沼利英君にも最大級の謝意を表したい。また最初から最後までびっしり朱の入った校正刷りの面倒な組版を快く引き受けて下さった研究社印刷株式会社のかたがたにも心からお礼を申し上げたい。最後に、今後本辞典をさらによりよいものにするために、大方の読者のご叱正、ご教示をお願い申し上げます。

1988年6月

東郷正延（編者代表）

この辞書の使い方

この辞書では (1) ロシア語の一般諸単語、固有名詞、接頭辞、前綴り、後綴り、各品詞の変形、外来語を本文 (pp. 1-2708) に示し、(2) 付録として、略語、人名、発音解説を掲載した。(1) に収録した主見出し、追込み見出し、成句、変形などの収録数は約 26 万語である。

I 見出し語

1. 原則として一語一見出しを採用したが、同じ単語でありながら綴りの一部が異なる語、動詞変形の見出し語、および追込み見出し語についてはこの原則によらないで、一箇所にまとめて示した。
2. 配列はアルファベット順としたが、上記の同じ単語でありながら綴りの一部が異なる語、動詞変形の見出し語などはかならずしもこの原則によらない。
3. 配列の上では ё は独立の字母とせず е の特別の場合として扱う。したがって ёж は её と ежа́ の間に её, ёж, ежа́ の順で、лёт は лет, лёт, лега́ の順で配列される。
4. 同じ綴りの別の単語は原則としてアクセントが前にある語を先にした。
5. 同じ綴りで同じアクセントの別の単語は肩番号で区別した。

例: бар¹ [男1] 1 酒場....
бар², 複生 -ров | (数詞と共に) бар [男1] 【気象】バール....
бар³ [男1] 【海】(河口や海岸の)砂州....
бар⁴ [男1] 【鉦】(鉦石穿孔機の)刃....

6. 一語で 2 品詞以上にわたる場合、— を用いて同一見出し内での品詞の分かれ目を示した。
例: гру́стно [-sn-] [副] さびしげに... — [無人述] <комú> 悲しい, さびしい...
7. 追込み見出し語の表示については、語義訳語を示さない場合についてはおおむね当該見出し語の変化しない部分の最終子音から記す。
例: безграницный, -чен, -чна [形1] -но́сть [女8] ... (безграницность [女8] であることを示す)。
8. アクセントの移動があるものは次のように表記した。
例: автогра́ф [男1] -графический [形3] ... (автографический [形3] であることを示す)。
9. 異形同義の男性名詞、女性名詞は次のように併記した。
例: делега́т [男1]; -тка, 複生 -ток [女3] ... ((-тка は делегатка [女3] であることを示す)。
10. 民族名は主に単数で見出し語としたが、まれに複数であげたものもある。
11. 重要語 (約 7500 語) には * をつけて学習の参考になるようにした。
例: *до́м, -ма | -му....

II 発音

1. [´] は主アクセントを, [˘] は副アクセントを示す。
2. ロシア語ではアクセントのおかれる位置が分かれば、おおむねその綴り字から語の発音をわりだすことができる (詳しくは巻末の「発音解説」参照)。本辞典では綴り字から直接わりだせないか、わりだしにくい部分にのみ IPA (国際音声字母) を用いて発音を表記する。

3. 発音表記は見出し語の次に, [] でくくって示す. 原則としてその発音はすべての語形に共通である.

例: **адекватный** [-de-] (《-де- の部分を [-d'i-] ではなく [-de-] と発音することを示す).

чувствовать [-ústv-], -ствую, -ствуешь (《-úств- を [-ústv-] と発音することを示す. その発音は **чувствую, чувствовать** と変化しても変わらない).

4. ある語形の発音に注意を要する場合, 表示された語形の次に [] で示す.

例: **эздить, эзжу** [-z'z'- | -z3-], **эздишь** (《5 参照》).

5. | を付す場合, 原則として, | の前に掲げるものが, 後に掲げるものより標準的な発音であることを示す.

例: **молóчный** [-ŋ'n- | -ŋn-] (《-чн- を [-ŋ'n-] と発音するのが標準的, [-ŋn-] は許容される発音であることを示す).

эздить, эзжу [-z'z'- | -z3-], **эздишь** (《эзжу という語形の -зж- を [-z'z'-] と発音するのが標準的, [-z3-] は許容される発音であることを示す).

ただし, 共に標準的な発音である場合もある.

例: **сейф** [sé- | s'é-] (《[sé-] も [s'é-] も共に標準的な発音》).

6. 語において数箇所発音表記の必要がある場合, 同一の [] 内において順序にしたがい, 省略部分は …, 隣接する部分は ; で区切って示す.

例: **агрессивный** [-r'i | -re; s' | s's'-] (《-ре- は [-r'i-] と発音するのが標準的, [-re-] は許容される発音, -сс- を [-s'-] と発音するのが標準的, [-s's'-] は許容される発音であることを示す. つまり, -ресс- は [-r'is'-] [-r'is's'-] [-res'-] [-res's'-] の 4 通りの発音があり得ることを示す).

аллегрétto [-l'…ré…ə | o] (《-лл- を [-l'-], -рэ- を [-ré-] と発音し -o は [-ə] と発音するのが標準的, [-o] は許容される発音であることを示す).

7. 発音がアクセントの表示および綴り字からわかりだせるものでも誤りやすいものには発音を表記したものがある.

例: **акаде́мия** [-d'é-] (《-де́- を [-d'é-] ではなく規則どおり [-d'é-] と発音することを示す).

8. 略語の発音は「ロシア語略語辞典」(《Словарь сокращений русского языка》) (第3版, 1983) に従って表記する.

ただし, 通常略さないで発音するもの (例 проф. は профéссор, в.д. は востóчная долготá と発音する), また頭文字のみからなる語以外で普通の単語のように発音するもの (例 Минвúз) には発音表記をおこなわない.

例: **СССР** [es-es-es-ér] (《文字の名称をそのまま発音することを示す. 各文字間に当たる部分に - を付すが, この部分でポーズ (па́уза) をとらなければならないというわけではなく, [esesesér] のように発音する).

АВАКС [aváks] (《[a-ve-a-ka-es] ではなく普通の単語のように [aváks] と発音することを示す).

III 品詞とその語形変化

品詞, 語形変化のタイプは, 見出し語の後につけた **㊦1**, **㊦1**, **㊦**, **㊦**, **㊦** などの記号によって示した (品詞, 語形変化のタイプの略号に関しては略語表を参照のこと). 語形変化そのものは変化表によって知ることができる. 以下品詞ごとに注意すべきことを示す.

A 名詞

1. 文法性は **㊦**, **㊦**, **㊦** の略号をもって表記する. ただし, 名詞の性が変化形の記号で示された性と一致するときはそれをもって代える.

例: **а́зубка** **㊦3** (《女性名詞で変化は **㊦3** の型》).

автомобиль **㊦6** (《男性名詞で変化は **㊦6** の型》).

боль **㊦8** (《女性名詞で変化は **㊦8** の型》).

2. 変化の型と文法性の異なる名詞は変化と別に **㊦**, **㊦** … を区別して表記する.

例: **дядя** **㊦** (《変化は **㊦5**》) (《男性名詞で変化は **㊦5** の型》).

соміна [安1] 1 男 ... 2 因 ... 《変化は [安1] の型で、1 の語義では男性名詞、2 の語義では女性名詞》。

3. 不変化名詞は、不変化であることと性を表記する。

例: кофе [不変] 男 《男性名詞で不変化》。
метрó [不変] 中 《中性名詞で不変化》。

4. 総性は [男-女] で表わし変化の型を添える。

例: сиротá [男-女] 《変化は [安1]》《総性名詞で変化は [安1]》。

5. 形容詞の名詞化した語にはそれが名詞であることを示し性を表記する。必要ならば変化の型も表示する。

例: богáтый, -гáт, -а [形1] 1 a) 富んだ... b) [б. 男名]; -тая [安名] 金持。
жáренный [形1] 1 焼いた... 2 [-ное 中名] 《旧》焼いた[いためた]肉料理...
жаркóе [中名] 《変化は [形3]》焼いた料理...

6. 複数形の形で使われる名詞は [圈] で示し、複数生格の形を添える。性は特に表記はしないが単数の形もあり得る場合は、括弧内で単数主格およびその性と変化形を表記する。

例: часы́, -сов [圈] 《複数名詞で生格形は часо́в であることを示す》。
боти́нки, -нок, -нкам [圈] ([圈] боти́нок, -нка [男3]) 《通例複数で使われ、生格形は боти́нок であるが、単数形 боти́нок [男3] もあることを示す》。

7. 集合名詞として用いられる語には [集合] と付する。

例: ме́бель [安8] [集合]。

8. ふたつの名詞をハイフンで連結した形の名詞に関しては、双方とも格変化をするものはハイフンでつないで変化形をそのまま示したが、ハイフンの後の部分しか格変化しないものはハイフンの後のものの変化のみを示した。ただし、若干の紛らわしいものについては [不変]-[男1] などとした。文法性は変化形の表示から読み取りがたい場合にそれを示した。

例: автомат-пакети́ровщик [男1]-[男3] 《男性名詞で автомат-пакети́ровщика, автомат-пакети́ровщику のように、双方とも変化しその型がそれぞれ [男1], [男3] であることを示す》。

вице-президéнт [男1] 《男性名詞で вице-президéнта, вице-президéнту... のように、前の部分が不変化で、後ろの部分が [男1] の変化をすることを示す》。

гоголь-мо́голь [不変]-[男6] 《男性名詞で гоголь-мо́голя, гоголь-мо́голю のように前の部分が不変化で、後ろの部分が [男6] の変化をすることを示す》。

дивáн-кровать [男] 《変化は [男1]-[安8]》《男性名詞で дивáна-кроватьи, дивáну-кроватьи のように、双方とも変化して、変化の型がそれぞれ [男1], [安8] であることを示す》。

9. 変化の際に力点の移動、綴り字の変化のあるときは単数: (主格、) 生格、与格、対格、造格、前置格、複数: 主格、生格、与格、対格、造格、前置格の順にそれを示す。
10. ただし、ある格以降その変化が規則的に生じる場合は変化が起こる最初のものをしてし、以下は省略した。移動または変化が語尾中のある 1 個についてのみおこなわれるときは特にそれを表示してある。

例: доро́га [安3] 《単数生格以下 доро́ги, доро́ге, доро́гу のように規則的に変化する》。

бык, -ка [男3] 《単数生格以下 быка́, быку́... となることを示す》。

де́ло, 複 дела́, дел, дела́м [中1] 《複数主格以下 дела́, дел, дела́м, ... となることを示す。単数は規則的に де́ла, де́лу... となるので表記しない》。

голова́, 単对 го́лову; 複 го́ловы, го́лов, го́ловам [安1] 《単数は対格のみアクセントが語幹に移る。複数は主格、生格のみアクセントが語幹にあり、与格以下(対格以外)はアクセントが語尾に移る》。

автору́чка, 複生 -чек [安3] 《複数生格が автору́чек であることを示す。そのほかの格変化形は規則的なので表記しない》。

同一格が 2 通りの語尾をもつ場合は | で区切ってそれを示す。

例: бензи́н, -на | -ну [男1] 《単数生格が бензи́на または бензи́ну であることを示す》。

B 代名詞

1. 代名詞には全ての性、数、格にわたって変化形を示すのを原則とする。

例: я́, меня́, мне, меня́, мной | мно́ю, обо́ мне [人代]。

2. 形容詞的な代名詞で形容詞と同じ変化をもつものは、[形1] のように変化の型を表記する。

例: ка́ждый [形1] [定代]。

C 数詞

1. 基本的な数詞にはすべての性、数、格にわたって変化形を示すのを原則とする(対格形は | で区切って不活動体 | 活動体の形をあげる).
例: два 男 田; две 因 [...] 生 двух, 与 двум, 对=主 | 生, 造 двумя, 前 о двух 圖數
трёе, трёх, трём, трё | трёх, тройми, о трёх 圖 (集合).
2. 順序数詞はおおむね形容詞と同じ変化を持つので, 形1 のように変化の型を表記する.
例: второй 形1 1 а) 序數....

D 形容詞

1. 形容詞は 形1 のように示し, 短語尾形があるものは, 見出し語の直後に男性, 女性, 中性, 複数の順でそれを記載した. ただし, 規則的に形成される短語尾形については, おおむね, 女性形までを示しその後は省略した. 短語尾を形成する際, 語形の変化や力点の移動を伴うものについてはいちいちこれを示した.
例: гото́вый, -то́в, -а 形1.
вкусный, -сен, -сна́, -сно, -сны | -сны́ 形1.
2. 物主形容詞は女性および中性の単数形までを見出し語の後に表記した.
例: во́лчий, -чья, -чье 物主 形6.
а́дов, -ва, -во 物主 形7.
3. 不規則な比較級, 最上級はこれを短語尾形の後にあげた.
例: бога́тый, -га́т, -а, -о; 比 бога́че; 最上 -те́йший 形1.
4. 短語尾形しかもたず, つねに述語として用いられる形容詞は男性短語尾形を見出し語として, 女性形, 中性形をあげ, 形 短尾 述語 とした.
例: рад¹, -а, -о 形 短尾 述語.

E 動詞

1. 動詞の体は完了体動詞を 完, 不完了体動詞を 不完, 完了体・不完了体の両方に用いられる動詞を 完不完 で示した.
2. 語義と活用の説明は原則として i) 接尾辞付与(交替)によって対応の体を生じるものはそのもとの形のところで(записа́ть 完 > записы́вать 不完) では, записа́ть のところで, ii) 接頭辞付与によって対応の体を生じるものは, 付与以前の本源動詞のところで(де́лать 不完 > сде́лать 完) では, де́лать のところで) おこなった. その場合, 語義説明のあるところでは対応の体を()で, 語義説明のないところでは ⇨ で, 対応の体を示した.
例: записа́ть ... 完 (不完 записы́вать) ... 1 書き込む, ...
запы́сывать 不完 ⇨ записа́ть.
де́лать 不完 (完 сде́лать) 1 а) <что> 作る, ...
сде́лать 完 ⇨ де́лать.
3. 対応する完了体動詞と不完了体動詞の語根が異なる場合, 語義説明は i) 接頭辞+不定体動詞が 完 を, 接頭辞+不定体動詞が 不完 を形成するペアでは, 前者で(войти́ 完-входи́ть 不完) では войти́ で, ii) лови́ть 不完-пойма́ть 完) では лови́ть で, iii) брать 不完-взять 完, говори́ть 不完-сказа́ть 完) では, 合致する語義は主に брать, говори́ть, 合致しない語義(4参照)はそれぞれのところで説明してある. また, iv) купи́ть 完-покупа́ть 不完) は, купи́ть でそれをおこなっている.
4. ある語義が一方の体のみに限られる場合には [完のみ], [不完のみ] と指示したり, 本来, 語義・活用の説明をおこなわない動詞のところでもその語義・活用にかぎって説明を与えた. 後者の場合, この語義・活用を欠く対応の体の動詞のところ, おおむね, この語義・活用をもつ動詞を参照するように指示した.
例: входи́ть, ... 不完 1 ⇨ войти́. 2 (状態を表わす)...に入って[加わって]いる; ...の一員である: ...
войти́ ... 完 (不完 входи́ть 参照)
5. 語義によって対応の体が異なる場合はそれぞれの語義で対応の体を示した.
例: дра́ть ... 不完 1 (完 разодрáть) а) 破る, ..., 引き裂く: ... 2 а) (完 содрáть) 剥く, 剥ぎ取る.... б) (完 ободра́ть) 皮を剥いて丸裸にする: ... 3 (完 задра́ть) <野獣が>かみ殺す....
6. 特に接頭辞付与によって体の対応関係を発生するものは, かならずしも両者の語義が完全に

重ならず対応がずれることが多いので、そのような場合には両方において語義説明をおこない、双方に、あるいは一方通行的に片方に参照の指示を付した。また、定体動詞では始発を表わす *по-* のついた形も参照させたし、完了を表わす *про-* の場合も音声を表わす動詞の主なものについて参照を指示してある。

7. 一回体動詞には **一回**、多回体動詞には **多回** と併記した。また定体動詞には **定**、不定体動詞には **不定** と併記し、対応を示した。

例: **гнать ... 不完 回 (不定 回гонять) 1 ...**

8. 動詞の活用は必要ならば、単数一人称、二人称、三人称、複数一人称、二人称、三人称、命令形、過去男性形、女性形、中性形、複数形、能動形動詞現在、能動形動詞過去、被動形動詞現在、被動形動詞過去、副動詞の順であげた。

例: **стричь, -ригý, -рижéшь, ..., -ригýт; 命 -ригí; 過 -риг, -ригла; 能現 стригýщий; 能過 стригший; 被過 -риженный; 副動用いず。**

9. ただし、**-ать, -ять** の不定形語尾をもつ動詞のうち、現在形の語幹が不定形語幹と等しいもので、第一式の規則変化をするものは現在変化は省略した。これらの動詞に **-ся** のついたものも同じような扱いをした。

例: **дéлать 不完** (規則変化なので, *дéлаю, дéлаешь, дéлает, дéлаем, дéлаете, дéлают* は省略)。

それ以外の動詞については単数一人称、二人称をあげるのを原則とし、必要があれば複数の三人称形をあげた。

例: **говорíть, -рú, -ришь...** (単数三人称以下 *говорít, говорím, говорíte, говорят* は省略)。

стричь, -ригý, -рижéшь, ..., -ригýт; ... (単数三人称以下 *стрижёт, стрижем, стрижете* まで省略)。

10. 現在形を表記した動詞では命令形はなるべく表記することにした。ただし、いくつかの動詞に見られる「単数 **-и(сь)**, 複数 **-ьте(сь)**」(*кашляни* だが *кашлянте, вьзволн* だが *вьзвольте*)、「単数 **-ь(ся)**, 複数 **-ите(сь)**」(*прочисти / прочисть* だが *прочистите*) などの傾向は、*Аванесов* 監修のロシア語正音法辞典の主張にもとづき、ここでは考慮に入れず、複数形は単数形から規則的に導きだされるものとした。

11. 過去形は力点や綴り字の変化のあるものをあげた。変化形の力点は最後のものに従う。

例: **везтí¹, -зý, -зéшь; 過 вéз, везлá; ...** (過去中性以下 *везлó, везлí*)。

брать, берú, берéшь; 過 брал, бралá, бралó; ... (過去複数 *брали*)。

12. 被動形動詞過去は短語尾形に力点の移動があればそれを示した。変化形の力点は最後のものに従う。

例: **ввезтí ...; 被過 -везённýй, -зён, -зена¹** (短語尾形中性以下 *ввезенó, ввезены¹*)。

13. **-ся** 動詞のうち、単に被動の意味の動詞は原則として見出し語にたてずに動詞の最後に追込み見出しとして追い込んだ。

例: **классифици́ровать ... 不完不完 <что> 分類する: ... -ться 不完 被動。**

IV 語義・活用とその表示のための記号

1. 語義は通例ボールド体のアラビア数字 **1, 2, 3, ...** を用いてその区分を示した。さらに下位区分として **a), b), c), ...** を用いたが、上位区分として **I, II, ... A, B, ...** を用いている場合もある。

2. 成句は◇の後にボールドイタリック体で、事項は◆の後にボールド体で、まとめて示した。

例: **вóлос ... ◇ ... ни на́ волос** 少しも(ない) (ниско́лько). **В-сы** 『ста́ли [под-ня́лись] ды́бом. 身の毛がよだった... ◆ **В-сы** Верони́ки 『天』かみのけ座...

3. 語義用例などの適切な表記・記述のために以下の記号を使用した。

- a) 見出し語中の名詞，形容詞の省略部分。

例：краска¹，複生 -сок [図3] (複数生格が красок であることを示す)。

красный，-сен，-сна... [形1] (短語尾形が красен，красна であることを示す)。

- b) 見出し語中の動詞の人称変化の省略部分。

例：крича́ть，-чу́，-чишь... (人称変化が кричу́，кричишь であることを示す)。

- c) 見出し語中の被動形動詞などの省略部分。

例：соверши́ть...；...；被過 -ше́нный，-ше́н，-шенá (被動形動詞過去が соверше́нный，その短語尾が соверше́н，совершенá であることを示す)。

- ~ 見出し語の例文中の繰り返される語幹部分の省略部分。

見出し語の語幹部分の省略に ~ をあて，そのすぐ後に見出し語の語幹部分の最終子音と変化する各々の形をイタリックの形で表記した。ただし，見出し語の形がそのまま繰り返される場合は見出し語の頭文字 (イタリック)+ピリオドの形で示す。

例：госуда́рственный [形1] 1 国の，国家的；国家的な；2. строй 国家体制 / 2. аппара́т 国家機構 / ~ная власть 国権 / ~ное управле́ние 国家統治... (それぞれ госуда́рственный строй 国家体制 / госуда́рственный аппара́т 国家機構 / го-суда́рственная власть 国権 / госуда́рственное управле́ние 国家統治... であることを示す)。

ただし，見出し語が一音節の語で 1~3 文字の語については省略せずに表記した。

例：вид¹... 4 a) 眺め，展望，景色：краси́вый вид на мо́ре 美しい海の眺め / ...

アクセントの変化の著しい語は用例中でも略さずに表記したのものもある。

例：доска́，... 1 (木の)板：... / дюймо́вая д. 厚さ 1 インチの板 / до́ски по́ла 床板 / забóр [насти́л] из до́сок 板べい[板じき] / ...

- / 用例と用例の切れ目を表わす。

⇒ 「参照せよ」の意で，変化形の原形や，対応の体，関連ある他の語などの参照先を示す。

例：вы́ел ⇒ вые́сть。

возража́ть [不完] ⇒ возра́зить。

больни́ца [図2] 病院 (入院患者だけを診療する；⇒ госпита́ль，поликли́ника)：....

【】 専門語，学術用語などの分野指示には【】を用いた (略語表参照)。

例：【植】=植物(学)，【化】=化学。

= 語義が等しいことを表わす

例：*тонне́ль [-né-] [男6] = тунне́ль。

< > a) 格支配を表わす (詳細は格支配の項参照)。

例：жа́ть¹，жму，жмёшь；命 жми；被過 жа́тый [不完] <кого́-что> 1 a) (完) сжать) 押す，圧する... 2 <無補>でも <服・靴>しめつける，きゅうくつだ：....

- b) 語義区分にあつて (動作主体の) 選択制限を表わすのに用いる。

例：жда́ть，... [不完] 1 3 ... <事件などが>待ちうけている，予期される：

жё́сткий ... [形3] 1 2 ... b) <寒さ・風など>はげしい (рэ́зкий)

() a) 省略可能な語を表わすのに用いる。

例：би́ть¹.... ◇... б. (пря́мо) в це́ль 的(的)を射る... (би́ть пря́мо в це́ль および би́ть в це́ль を表わす)。

- b) 同意語を表わすのに用いる。

例：бла́го¹ [甲1] 1 幸福 (сча́стье)，福祉 (благосо́стояние)....

- c) 語義訳を部分的に補う。

例：вы́садить... 1 (むりに・手助けて)下車[下船，上陸]させる....

[] a) 発音表記に当てる。

例：пра́здник [-z'n'-] ...

- b) 言い換えをする場合。

例：гово́рить... 6 a) (погово́рить 参照) 会話する...；2. с 'дру́гом [ма́терью] 友人[母]と話す /

- c) 「の記号は [] で示された入れ替え可能な語句の，入れ替える部分の最初の語の左側に付ける。ただし，文頭の語から入れ替え可能な場合は省略した。

例：чита́ть... [不完]... 1 a) ...読む...；ч. кни́гу [газе́ту，журна́л] 本[新聞，雑誌]を読む / ...

d) どちらの語でも可能であることを意味する場合もある。

例: **ждать ...** ◇ **Время [Дело] не ждёт.** ぐずぐずしているひまはない。(Время не ждёт. も Дело не ждёт. もあることを示す)。

e) 簡単な文法上の表記。

例: **брус ... 3** [圈て] [体操] 平行棒...
бывать ... 1 а) [無入動] ても ...

★, 語法 詳しい文法上の説明, 語法上の指示を示す。

↔ 反意語, 対義語の表示に当てる。

例: **высокий ... 1 а)** 高い (↔ низкий), ...

(()) a) 文体的指示を与えるのに用いる。

((口)) = 口語, ((俗)) = 俗語。

b) 補足的な参考上の説明を表わすのに用いる。

例: **вдовый, вдов, -а** [形1] やもめ (男・女とも): ...
больница [女2] 病院 (入院患者だけを診療する; ⇒ госпиталь, поликлиника): ... /
головная б. 中央診察病院 (患者の診断と専門病院への振り分けを行なう) / ...

c) 記号 < と共に用いて派生関係を示す。

例: **выписка, 複生 -сок** [女3] (<выписатьъ) **1** ((口) a) 書き抜くこと: ... (выписка が動詞 **выписать** から派生した名詞であることを示す)。

| 異なる語形を併記するのに用いる。

例: **безлистный | безлыстый** [形1]。

* a) 重要語を示すのに用いる。

例: *глаз, *головá。

b) 参照先などが二語以上からなるとき, 語義説明のある語を示す。

例: **красный ...** ◆ ... ~ная суббота = *ленинский (коммунистический) субботник (ленинский に語義説明があることを示す)。

4. 格支配

i) 格支配はく > のなかで不活動体は **что** の格変化形, 活動体は **кто** の格変化形をもってこれを示した。双方を取るものはハイフンでつないでそれを示す。特に活動体の対格であることを示す必要がある時は <кого (что)> の表記法を用いた。いく通りかの支配がある場合は / で区切ってそれを併記してある。<無補> は他動詞でありながら補語を伴わない語義・用法, 自動詞としての語義・用法などについて用いた。もともと格支配のない本来的な自動詞には <無補> の記号もつけていない。

格支配に対応する日本語の助詞は語義の所で < > のなかに <...を, ...に, ...で> のように示してある。ただし, <...を> については省いたものが多い。

例: **жать¹**, жму, жмёшь; 命 жми; 被過 **жаты́й** [不完] <кого-что> **1 а)** (完) **сжать** 押す, 圧する... **2** <無補> ても <服・靴が> しめつける, きゅうつだ: ... **6** <無補> ((俗) [ある種の動詞の代わりに用いて] 精力的にやる: ... 《жать は全体として <кого-что> (対格) 支配であるが, 2 の語義のときは無補語でも使われ, 6 の語義のときは無補語で使われることを示している。また, 2 の <服・靴が> は, 動作主体の選択制限を表わす。IV の < > の項を参照のこと)。

ждать ... [不完] **1** <кого-что/кого-чего/пока, когда> [圈] 待つ, 待っている: ... **2** <чего/> [不定形/что 圈] 予期する; 期待する: ... **3** <кого-что> <事件などが> 待ちうけている, 予期される: ... (1 の語義のときは <кого-что> または <кого-чего> または <пока 圈> または <когда 圈> を伴って使われ, 2 の語義のときは <чего> または <不定形> または <что 圈> を伴って, 3 の語義のときは <кого-что> を伴って用いられることを示す)。

жадный, -ден, -днá, -дно, -дны | -дны [形1] **1** ... **2** <к чему/на что/до чего> <...に> どん欲な, <...に> 目のない: ...

ii) ただし, 用例中の格支配はローマン体で, 成句中のそれはイタリック体で示した。

例: **любить ... 1** ...: ... / л. **кого за доброту [честность]** 善良[正直]なので...を愛する...

внести ... ◇ **в. вклад во что** ...に貢献する。

iii) 用例中, 成句中の格支配は自明な場合にはしばしば省略してある。

語尾変化表

以下の表は規則的な語形変化のみをまとめたものである。

§1 名 詞

性	単 数						複 数					
	主	生	与	対	造	前	主	生	与	対	造	前
男1	*	-а	-у	主 生	-ом	-е	-ы	-ов	-ам	主 生	-ами	-ах
男2	-ц	-а	-у	主 生	-ем -óm ¹⁾	-е	-ы	-ев -óв	-ам	主 生	-ами	-ах
男3	-г -к -х	-а	-у	主 生	-ом	-е	-и	-ов	-ам	主 生	-ами	-ах
男4	-ж -ч -ш -щ	-а	-у	主 生	-ем -óm	-е	-и	-ей	-ам	主 生	-ами	-ах
男5	-й -ий	-я -я	-ю -ю	主 生 主 生	-ем -ем	-е -и	-и -и	-ев -ёв -ев -ёв	-ям -ям	主 生 主 生	-яни -яни	-ях -ях
男6	-ь	-я	-ю	主 生	-ем -ём	-е	-и	-ей	-ям	主 生	-яни	-ях
中1	-о	-а	-у	主 ²⁾	-ом	-е	-а	—	-ам	主 ²⁾	-ами	-ах
中2	-е -бе -ьё	-я -ья	-ю -ью	主 主	-ем -ьем -ьём	-е -ье	-я -ья	-ей -ий ёй	-ям -ьям	主 主	-яни -ьяни	-ях -ьях
中3	-ие -иё	-я	-ю	主	-ем	-и -ё	-я	-й(-ёв)	-ям	主	-яни	-ях
中4	-же -це -че -ше -ще	-а	-у	主	-ем	-е	-а	—	-ам	主	-ами	-ах
中5	-мя	-ени	-ени	主	-енем	-ени	-ена	-ён -ян	-енам	主	-енами	-енах
女1	-а	-ы	-е	-у	-ой ³⁾	-е	-ы	—	-ам	主 生	-ами	-ах
女2	-ца	-ы	-е	-у	-ей -óй ³⁾	-е	-ы	—	-ам	主 生	-ами	-ах
女3	-га -ка -ха	-и	-е	-у	-ой ³⁾	-е	-и	—	-ам	主 生	-ами	-ах
女4	-жа -ча -ша -ща	-и	-е	-у	-ей -óй ³⁾	-е	-и	- -ёй	-ам	主 生	-ами	-ах
女5	-я -ая -ея -уя	-и -и	-е -е	-ю -ю	-ей -ёй ³⁾ -ей -ёй ³⁾	-е -е	-и -и	-ь -ёй -й	-ям -ям	主 生 主 生	-яни -яни	-ях -ях
女6	-ия	-и	-и	-ю	-ей ³⁾	-и	-и	-й	-ям	主 生	-яни	-ях
女7	-ья	-ьи	-ье	-ью	-ьей -ьёй	-ье	-ьи	-ий -ёй	-ьям	主 生	-ьяни	-ьях
女8	-ь	-и	-и	-ь	-ью	-и	-и	-ей	-ям	主 生	-яни	-ях
女9	-жь -чь -шь -щь	-и	-и	-ь	-ью	-и	-и	-ей	-ам	主 生	-ами	-ах

1) |の後の語形変化は語尾に力点がかかる場合(中・女性形も該当)。この場合、他の諸格(-а, -у, -е)においても力点は語尾にくる。

2) 男性だが中性変化の活動体名詞(語尾は -о にかぎらない)は、対で 対=生 となる。

3) -ой, -ей, -ёй は -ою, -ею, -ёю の形もある。

* ц, г, к, х, ж, ч, ш, щ 以外の硬子音で終わるもの。

§2 形容詞

型	格	主	生	与	対	造	前	短語尾
[形1]	男	-ый -ой ¹⁾	-ого	-ому	主 生	-ым	-ом	—
	女	-ая	-ой	-ой	-ую	-ой ²⁾	-ой	-а
	中	-ое	-ого	-ому	-ое	-ым	-ом	-о
	複	-ые	-ых	-ым	主 生	-ыми	-ых	-ы
[形2]	男	-ий	-его	-ему	主 生	-им	-ем	-ь ³⁾
	女	-ья	-ей	-ей	-ую	-ей ²⁾	-ей	-я
	中	-ее	-его	-ему	-ее	-им	-ем	-е
	複	-ие	-их	-им	主 生	-ими	-их	-и
[形3]	男	(Г, К, Х) -ий -ой ¹⁾	-ого	-ому	主 生	-им	-ом	—
	女	-ая	-ой	-ой	-ую	-ой ²⁾	-ой	-а
	中	-ое	-ого	-ому	-ое	-им	-ом	-о
	複	-ие	-их	-им	主 生	-ими	-их	-и
[形4]	男	(Ж, Ч, Ш, Щ) -ий -ой ¹⁾	-его -ого	-ему -ому	主 生	-им	-ем -óm	—
	女	-ая	-ей -ой	-ей -ой	-ую	-ей ²⁾ -ой ²⁾	-ей -ой	-а
	中	-ее -ое ¹⁾	-его -ого	-ему -ому	-ее -ое	-им	-ем -óm	-е -ó
	複	-ие	-их	-им	主 生	-ими	-их	-и
[形5]	男	(Ц) -ый	-его	-ему	主 生	-ым	-ем	—
	女	-ая	-ей	-ей	-ую	-ей ²⁾	-ей	-а
	中	-ее	-его	-ему	-ее	-ым	-ем	-е
	複	-ые	-ых	-ым	主 生	-ыми	-ых	-ы
(物主) [形6]	男	-ий	-ьего	-ьему	主 生	-ьим	-ьем	
	女	-ья	-ьей	-ьей	-ью	-ьей ²⁾	-ьей	
	中	-ье	-ьего	-ьему	-ье	-ьим	-ьем	
	複	-ьи	-ьих	-ьим	主 生	-ьими	-ьих	
物主 [形7] ⁵⁾	男	—	-ого -а ⁴⁾	-ому -у	主 生	-ым	-ом	
	女	-а	-ой	-ой	-у	-ой ²⁾	-ой	
	中	-о	-ого -а	-ому -у	-о	-ым	-ом	
	複	-ы	-ых	-ым	主 生	-ыми	-ых	

- 1) 男性単数主格で力点が語尾にある場合 ([形1], [形3], [形4] の -ой) には他の性数格においても力点は語尾に移る。例えば, [形1] の男単生 -ого は, -ого|-óго の意, 同女単主 -ая は -ая|-áя の意, [形4] 男単造の -им も -им|-ím の意。短語尾の力点, 出母音の出方は各々の見出し語を参照のこと。
- 2) 造格 -ой, -ей はまた -ою, -ею ともなる。
- 3) бескра́йный の男は -кра́ен, изли́шний の男は -ли́шен, разносто́ронный の男は -ро́нен となる。また длинноше́й, тонкоше́й のような形容詞の場合(短語尾はまれ)は -(ше́й)н となる。
- 4) -ин, -ын (ма́мин, бра́тнин, дя́дин, те́тин など) はふつう男中単の生与で, -ого, -ому となるのに対し, -ов, -ёв, -ев, は -а, -у に, -ин (фо́мин, ильи́н) は -á, -ý となる。
- 5) господа́нь は 物主 [形7] の軟変化形で, 男単は, 生 господа́ня, 与 господа́ню, ... 中単は主 господа́не, 生 господа́ня, ... 女単は主 господа́ня, 生 господа́ней, 複は主 господа́ни, 生 господа́них, ...

動詞語形変化の基本型

		第一式 чита́ть* (不完) — прочита́ть (完)		第二式 говори́ть (不完)		-ся 動詞 занима́ться (不完)	
未 来	単 1	бу́ду	+ чита́ть прочита́ю	бу́ду	+ говори́ть прочита́ю	бу́ду	+ занима́ться прочита́ю
	2	бу́дешь		бу́дешь		бу́дешь	
	3	бу́дет		бу́дет		бу́дет	
	複 1	бу́дем		бу́дем		бу́дем	
	2	бу́дете		бу́дете		бу́дете	
	3	бу́дут		бу́дут		бу́дут	
現 在	単 1	чита́ю**		говори́ю**		занима́юсь**	
	2	чита́ешь		говори́шь		занима́ешься	
	3	чита́ет		говори́т		занима́ется	
	複 1	чита́ем		говори́м		занима́емся	
	2	чита́ете		говори́те		занима́етесь	
	3	чита́ют		говори́ят		занима́ются	
命 令	単	чита́й	прочита́й	говори́		занима́йся	
	複	чита́йте	прочита́йте	говори́те		занима́йтесь	
過 去	単男	чита́л***	прочита́л***	говори́л***		занима́лся***	
	単女	чита́ла	прочита́ла	говори́ла		занима́лась	
	単中	чита́ло	прочита́ло	говори́ло		занима́лось	
	複	чита́ли	прочита́ли	говори́ли		занима́лись	
能 現 能 過		чита́ющий		говоря́щий		занима́ющийся	
		чита́вший	прочита́вший	говори́вший		занима́вшийся	
被 現 被 過		чита́емый		говори́мый			
	単男 単女 単中 複	(чита́нный) чита́н чита́на чита́но чита́ны	прочита́нный прочита́н прочита́на прочита́но прочита́ны	(говоре́нный) говоре́н говоре́на говоре́но говоре́ны			
副 動	чита́я (чита́в)	прочита́в	говоря́		занима́ясь		

* -овать (-евать) 動詞は -ова- (-ева-) を -у- に変えることによって現在語幹を形成する。
例: рисова́ть → рису́ю, рису́ешь, ..., рису́ют.

** - の前が現在語幹, 後が現在語尾.

*** - の前が過去 (=不定形) 語幹, 後が過去語尾.

語形変化形形成の基本的規則:

〔命令形〕 母音および ь で終わる現在語幹の後では -й, 現在語幹が子音で終わり, 力点が一人称単数で語尾にくる場合は -й, 現在語幹が2個以上の子音で終わり, 力点が語尾に移らない場合は -и, 同じく1個の子音の場合は -ь を現在語幹につけて形成.

〔能形現〕 第一式は 現在語幹 + -ующий (語幹が母音, ь で終わる場合), -ущий (語幹が子音で終わる場合): писа́ть → пишу́, пи́шешь, ..., пи́шут → пишу́щий, 第二式は 現在語幹 + ящий (語幹が母音で終わる場合, ж, ч, ш, щ 以外の子音で終わる場合), -ащий (語幹が ж, ч, ш, щ で終わる場合).

〔能形過〕 過去語幹 + -вший. (語幹が子音に終わる動詞では -шнй).

〔被形現〕 現在語幹 + -емый (第一式), -имый (第二式). まれに -о́мый も (вести́ → ведо́мый).

〔被形過〕 -а, -я, -е で終わる過去語幹の場合は -нный, -и あるいは子音で終わる過去語幹の場合は -енный, -ённный, 現在語幹が м, н で終わる -ать, -ять 動詞, -нять, -ять, -ереть, -олоть, -ороть, -уть 動詞, 一音節の -ыть, -ить, -еть 動詞の後では -тый をつけて形成.

〔不完了体副動〕 現在語幹 + -я (-а). (-я, -а は完了体副動詞の形成に用いられることもある. 例: при́йти → приду́т → приду́, прине́сти → принесу́т → принеся́). ただし, дава́ть は дава́я.

〔完了体副動〕 過去語幹 + -в, -вши. (語幹が子音に終わる場合は -ши).

-ся 動詞の -ся は 母音の後では -сь, 子音の後では -ся. ただし, 〔完了体副動〕 -вши(-ши)сь, 〔能形現〕 -щийся.

V 専門語指示略語表

【医】	医学	【考古】	考古学	【生化】	生化学
【映】	映画	【古生】	古生物(学)	【生理】	生理学
【音】	音楽	【昆】	昆虫	【測】	測地学
【化】	化学	【細】	細菌学	【地】	地理
【海】	航海・海事	【財】	財政学	【地物】	地球物理
【解】	解剖	【史】	史学, 歴史	【鳥】	鳥類(学)
【貝】	貝類	【詩学】	詩学, 韻律	【哲】	哲学
【外】	外交	【社】	社会学	【天】	天文
【機】	機械(学)	【写】	写真	【電】	電気
【教】	教育	【狩】	狩猟	【電算】	コンピュータ
【魚】	魚類	【宗】	宗教	【電子工】	電子工学
【ギ神話】	ギリシア神話	【修】	修辞	【統】	統計
【ギ正教】	ギリシア正教	【商】	商業	【動】	動物(学)
【空】	航空	【植】	植物(学)	【農】	農業
【軍】	軍事	【心】	心理学	【美】	美術, 絵画
【経】	経済学	【水理】	水理学	【簿】	簿記
【芸】	芸術	【数】	数学	【法】	法律, 法学
【劇】	演劇	【ス神話】	スラヴ神話	【放送】	ラジオ, テレビ
【建】	建築	【スポーツ】	競技	【薬】	薬剤, 薬学
【工】	工学	【政】	政治(学)	【理】	物理, 理学
【光】	光学	【聖】	聖書	【林】	林業
【鉱】	鉱物, 鉱山	【生】	生物学	【論】	論理学

VI 用法指示略語表

男	男性(形)	副	副詞	【物主 形6, 物主 形7】	物主形容詞で 各々 形6, 形7 の変化をきる
女	女性(形)	【述語】	述語(として)	【不変】	不変化
中	中性(形)	【無人動】	無人称動詞	【定】	定動詞
【男名】	男性名詞	【無人述】	無人称述語	【不定】	不定動詞
【女名】	女性名詞	【完】	完了体動詞	【一回】	一回体動詞
【中名】	中性名詞	【不完】	不完了体動詞	【多回】	多回体動詞
【複名】	複数名詞	【完不完】	完了体動詞と 不完了体動詞	【前綴】	前つづり
【集合】	集合名詞; 集合的に	【前置詞】	前置詞	【後綴】	後つづり
【人代】	人称代名詞	【接】	接続詞	【接頭】	接頭辞
【関係代】	関係代名詞	【間】	間投詞	【接尾】	接尾辞
【指示代】	指示代名詞	【節】	従属節	【個数】	個数詞
【不定代】	不定代名詞	【單】	(名詞の)単数形	【序数】	序数詞
【定代】	定代名詞	【複】	(名詞の)複数形	【基数】	基数詞
【再帰代】	再帰代名詞	【男1, 男6】	男性名詞の変化の型	【無補】	補語なして
【疑問代】	疑問代名詞	【女1, 女9】	女性名詞の変化の型	【被現】	被現
【否定代】	否定代名詞	【中1, 中5】	中性名詞の変化の型	【被過】	被動形現在
【名】	名詞	【形1, 形5】	形容詞の変化の型		被動形過去
【形】	形容詞				
主	主格	長尾	長語尾(形)	被現	被動形動詞現在
生	生格	比	比較級	被過	被動形動詞過去
与	与格	最上	最上級	副動	副動詞(現在)
対	対格	命	命令形	指小	指小語
造	造格	過	過去形	卑小	卑小語
前	前置格	能現	能動形動詞現在	指大	指大語
呼	呼格	能過	能動形動詞過去	愛称	愛称語
短, 短尾	(形容詞の)短語尾(形)	被動	(動詞の)被動(受身)		
《口》	口語	《方》	方言	《旧・文》	《旧》もしくは文語
《文》	文語	《民話詩》	民話および詩のなかで	《公》	公用語
《俗》	俗語	《旧口》	《旧》の口語	《雅》	雅語
《旧》	廢語もしくは余り用 いられない	《旧文》	《旧》の文語	《革前》	革命前に用いられた
《まれ》	まれにしか用いられない	《旧・口》	《旧》もしくは口語	《職》	職業用語

ロシア語字母・発音記号表

活字体	筆記体	名称	記号	例
A a	<i>A a</i>	[á]		
Б б	<i>Б б</i>	[bé]		
В в	<i>В в</i>	[vé]		
Г г	<i>Г г</i>	[gé]		
Д д	<i>Д д</i>	[dé]		
Е е	<i>Е е</i>	[jé]		
Ё ё	<i>Ё ё</i>	[jó]		
Ж ж	<i>Ж ж</i>	[zé]		
З з	<i>З з</i>	[zé]		
И и	<i>И и</i>	[í]		
Й й	<i>Й й</i>	[ikrátokjə]		
К к	<i>К к</i>	[ká]		
Л л	<i>Л л</i>	[él' él]		
М м	<i>М м</i>	[ém]		
Н н	<i>Н н</i>	[én]		
О о	<i>О о</i>	[ó]		
П п	<i>П п</i>	[pé]		
Р р	<i>Р р</i>	[ér]		
С с	<i>С с</i>	[és]		
Т т	<i>Т т</i>	[té]		
У у	<i>У у</i>	[ú]		
Ф ф	<i>Ф ф</i>	[éf]		
Х х	<i>Х х</i>	[xá]		
Ц ц	<i>Ц ц</i>	[sɛ́]		
Ч ч	<i>Ч ч</i>	[tʃ'ɛ́]		
Ш ш	<i>Ш ш</i>	[ʃá]		
Щ щ	<i>Щ щ</i>	[ʃ'ʃá]		
Ъ ъ	<i>Ъ ъ</i>	[t'v'órdij tv'órdij znák]		
Ы ы	<i>Ы ы</i>	[í]		
Ь ь	<i>Ь ь</i>	[m'áxk'ij znák]		
Э э	<i>Э э</i>	[é]		
Ю ю	<i>Ю ю</i>	[jú]		
Я я	<i>Я я</i>	[já]		
			母音	
			[á]	там [tám]
			[ɛ́]	этот [étət]
			[í]	два [ívə]
			[ó]	том [tóm]
			[ú]	зуб [zúp]
			[i]	сын [sín]
			[a]	вода [vadá]
			[ə]	город [górət]
			[e]	атеист [ateíst]
			[o]	радио [rád'io]
			[i]	лесá [l'isá]
			[i]	бывáть [b'ívát']
			[u]	урок [urók]
			子音	
			[p]	пáпка [pápkə]
			[b]	бáсня [bás'n'ə]
			[p']	пять [p'át']
			[b']	бить [b'ít']
			[f]	фáбрика [fábr'íkə]
			[v]	вы [ví]
			[f']	фáрма [f'írma]
			[v']	вáнуть [v'ánut']
			[m]	мáть [mát']
			[m']	мíр [m'ír]
			[t]	тáк [ták]
			[d]	дá [dá]
			[t']	тéло [t'élə]
			[d']	дýдя [d'ád'ə]
			[s]	сáд [sát]
			[z]	зáл [záł]
			[s']	сéрый [s'értij]
			[z']	зéлень [z'él'm]
			[ʃ]	цáрь [ʃár']
			[dʒ]	дзýв [dʒúzɪf]
			[n]	онá [aná]
			[n']	нýня [n'án'ə]
			[l]	лáмпа [lámpə]
			[l']	лéто [l'éto]
			[ʃ]	шáг [ʃák]
			[ʒ]	жáль [ʒál']
			[ʃ'ʃ]	щí [ʃ'ʃí]
			[ʒ'ʒ]	вóжжи [vóz'ʒ'i]
			[tʃ]	чáс [tʃ'ás]
			[dʒ]	áлчбá [aldʒ'bá]
			[tʃ]	лýчше [lúʃtʃ]
			[dʒ]	отжítь [adʒzít']
			[r]	рáк [rák]
			[r']	рýд [r'át]
			[j]	я [já]
			[k]	кáк [kák]
			[g]	горá [gará]
			[k']	кíт [k'ít]
			[g']	герóй [g'rój]
			[x]	хорóшó [xərəʃó]
			[x]	бухгáлтер [buxgált'ír]
			[x']	хíтрый [x'ítrij]
			その他の記号	
			[ˈ]	副アクセント мáшинстроéние [maʃ'ínstrəjén'ijə]
			[ˑ]	音節の切れ目 мèжарáбский [m'èʃ'aráp'sk'ij]

* それぞれの発音記号については巻末の発音解説を参照。